

令和6年度事業報告書

令和6年度におきましては、令和4年度、令和5年度の実績を踏まえ、各事業所の稼働率の向上を図るため、入所申し込みから入所判定会議に至る入所業務を専任化する体制に変更いたしました。

その結果、入所施設の稼働率は、愛宕特養においては、令和5年度の稼働率が56.8%でありましたが、令和6年度には92.7%と35.9ポイント増と大幅に向上したほか、博愛特養では令和6年度92.6%と12.8ポイント増、博愛ケアハウスでは90.4%と6.8ポイント増、愛宕ケアハウスでも95%と7ポイント増と令和5年度に比べますと、稼働率の大幅な改善が図られました。

この稼働率の向上は、収入面において、特に介護保険事業収益及び老人福祉事業収益に反映されており、当法人の事業活動収益は令和5年度に比べ、約99,724千円の増となっております。

一方、支出面につきましては、人件費がマイナス7,187千円となっております。これは、令和6年度に定期昇給を行う一方、令和5年度に正職員が2名減となっていることに加え、令和6年度の職員の賞与の支給率を見直したことが主な要因となっております。

また、事業費では、稼働率の向上に伴う入所者数の増加に伴い、給食費及び光熱水費の支出が増加となっており、約12,306千円の増となっております。なお、事務費につきましては大幅な増減はありませんでした。

以上の結果、法人全体の経営状況につきましては、当期の資金収支差額として、5,460千円の黒字決算となっております。

続きまして、職員の確保についてであります。法人全体としては、令和6年度の中途退職者の数は10名と前年度より5名減、一方中途採用者の数は9名にとどまっておりますが、令和7年4月1日付けで4名新規採用し、令和6年度当初に比べ3名増となっております。

中でも、介護職員につきましては、中途退職者が5名ありましたが、中途採用6名に加え、令和7年度新規採用者2名を加え、令和6年度当初に比べ3名増となっております。高い稼働率を安定的に維持していくためには、介護職員の確保が不可欠であると考えておりますことから、引き続きハローワークや就職フェアなどを活用し、積極的に人材確保を図ってまいります。

また、看護職員につきましても、入所者の介護度が高くなり、医務の負担も増す中、令和6年度中に正職員1名の退職がありましたが、2名の8時間勤務のパート職員を採用したところです。介護職員と同様に、引き続き人材確保を図ってまいります。

介護サービスの質の向上につきましては、職員が介護技術や知識の修得、認知症にかかる介護実践など外部で開催される研修に積極的に参加するほか、2月には入居者様がベッドから離れたらすぐにセンサーが教えてくれる最新式ベッド6台を京都府の補助金を活用し購入しました。すでに2台を整備しておりますので同様のベッドは計8台の保有となります。今後も引き続き、あらゆる機会、また、有利な財源を活用しながら、人的、物的の両面で、介護サービスの質の向上を図ってまいります。

次に、リスクマネジメントについてであります。入所者などの事故の件数が令和5年度31件に比べ、令和6年度は27件と4件減少しております。事故の原因は様々ではありますが、定期的に委員会を開催し、その発生原因をしっかりと分析し、その結果を職員全員と情報共有を図ることにより、再発防止に努めております。

また、身体拘束や虐待の防止につきましては、身体拘束の指針と運用マニュアルに基づき、さらには現場レベルでの対応として委員会も立ち上げて取り組みを進めており、単に入所施設内の問題にとどまらず、在宅サービスのご利用者様のご家族による虐待の早期発見ができるようケアマネを含め研究しております。

ご入所者などの健康管理につきましては、日ごろから体調の把握に努めており、何らかの症状がある場合には、嘱託医の指示の下で看護師と介護職員が連携して適切に対応しており、また、感染症につきましては、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザ、ノロウイルスなど、当法人で作成しております「感染対策指針」に基づき衛生管理を徹底しており、予防や対処方法につきましても、最新の知見をさらに研究し、適切に対応してまいります。

災害時の訓練としましては、総合消防訓練を年間2回実施したほか、博愛では土砂災害避難訓練と原子力災害に備えて設置した空気清浄機の稼働も兼ねた原子力災害総合訓練を、愛宕では水害対策避難訓練を実施いたしました。

以上が、令和6年度事業の総括であります。職員の努力もあり、稼働率の増加が見られ、令和5年度と比べ経営状況は一定改善したところでありますが、依然として介護事業を取り巻く状況は厳しいものと認識しております。

光熱水費や米価を始めとした食材費の高騰、最低賃金の上昇に伴う各種業務

委託料の高騰といった短期的な課題に加え、中長期的には老朽化した設備の計画的な更新などの課題を抱えながらも、入所者様などに安心・安全でより満足度の高い介護サービスを提供できる施設を目指し、引き続き健全な事業運営に努めてまいりたいと考えております。